

## 盛 秀嗣 氏の学位審査結果の要旨

主査：上野 博夫

副査：山田 久夫、楠本 健司

マウスブルッフ膜は脈絡膜と強膜の間に存在し、生後 3-6 週に成熟するが、その形成過程、とりわけ弾性板の形成を詳細に解析された研究はほとんどなかった。今回 C57/BL6 マウスを用い、胎生 12.5 日から生後 74 週まで経時的に弾性繊維の構成タンパク質の存在を検証した。その結果、fibrillin-1, LTBP-2 および 4、tropoelastin、fibulin-5 はいずれも胎生後期から発現し、生後 3-6 週においてブルッフ膜弾性板に存在が確認できた。また免疫染色にて、fibrillin-1 と LTBP-2 および 4 と、LTBP-2 と tropoelastin の共局在が確認できた。以上の結果は全眼球による RT-PCR にても支持された。本研究は高齢者の失明の主たる原因の一つである脈絡膜新生血管発症機序に関連し、将来的に加齢黄斑変性症の発症機序の理解にもつながりうる重要な基礎研究であると考えられ、十分学位に値すると考えられた。